

「北浦梨」産地の活性化に向けた、 ICT活用による栽培の「見える化」

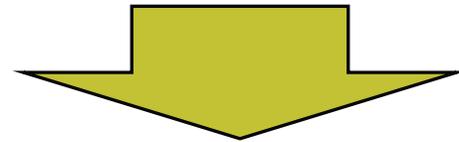
- 計画期間：令和6～8年度
- 対象者：JA新みやぎ北浦梨部会若手生産者1人、役員等3人(部会員35人)、
株式会社ファームおてんとさん栽培担当者2人
- 美里農業改良普及センター チーム員：◎伊藤あゆ美、佐藤典子、佐藤泰征、秋月まこ、齋藤憲治

■課題の背景

- 美里町の特産品「北浦梨」
 - ・栽培面積：約10ha、生産者：約40名
 - ・親族間、企業参入による経営継承



- 課題
 - ・若手生産者、新規参入者等への栽培技術の継承
 - ・近年の凍霜害や病害虫の発生時期の変化への対応



栽培管理データの比較、電子データの記録・整理・蓄積

■活動事項

1 栽培環境の「見える化」

気象データ収集展示ほの設置



2 病害虫発生 of 「見える化」

発生消長調査、情報交換等ネットワーク運用

3 経営の「見える化」

栽培管理記録及び比較、検討等



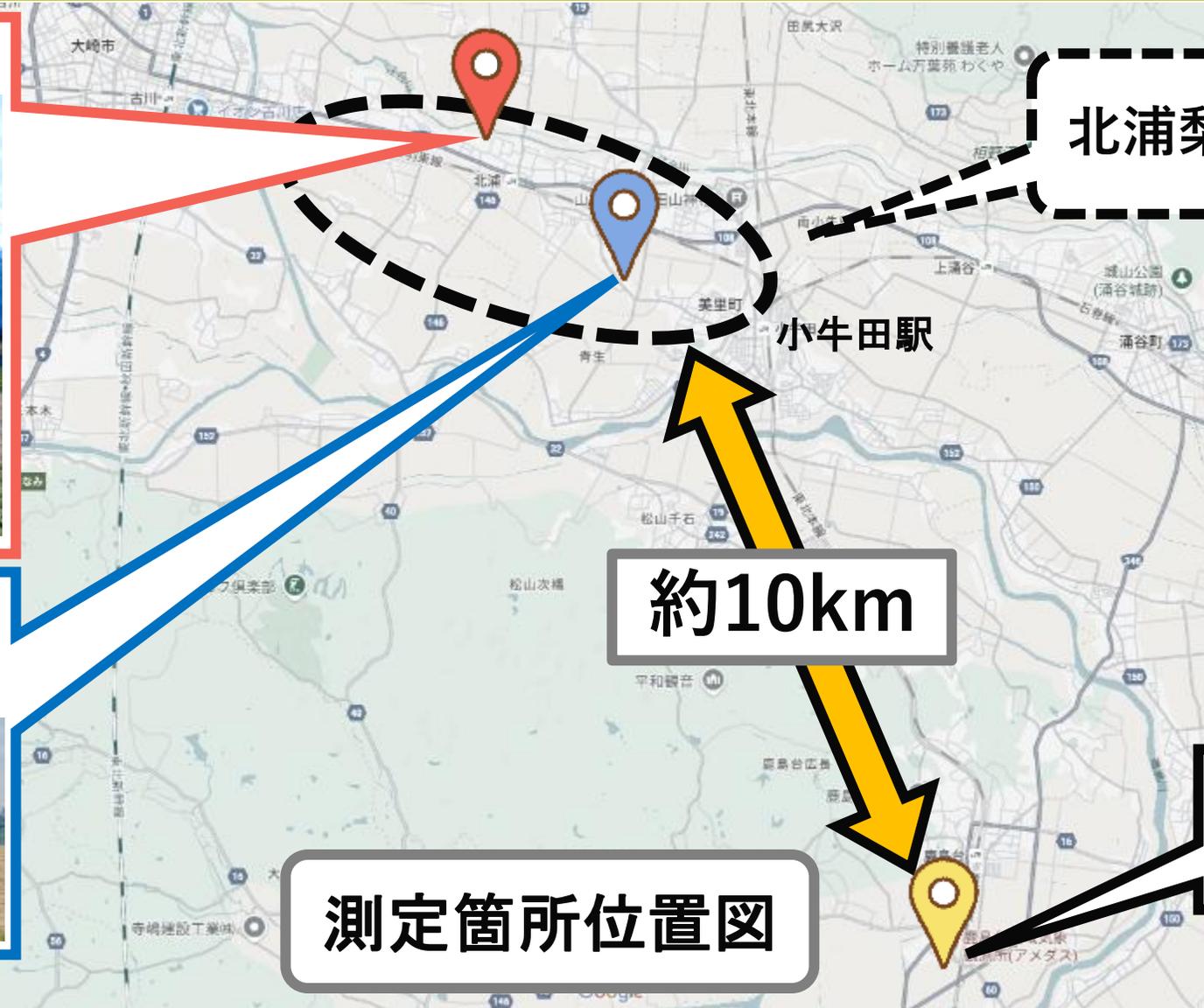
～ICTを活用した管理手法を確立し、産地の活性化！～

1 栽培環境の「見える化」

気象データ展示ほ①
(若手生産者)



気象データ展示ほ②
(ファームおてんとさん)



北浦梨産地

小牛田駅

約10km

鹿島台
アメダス

測定箇所位置図

1 栽培環境の「見える化」

測定機器



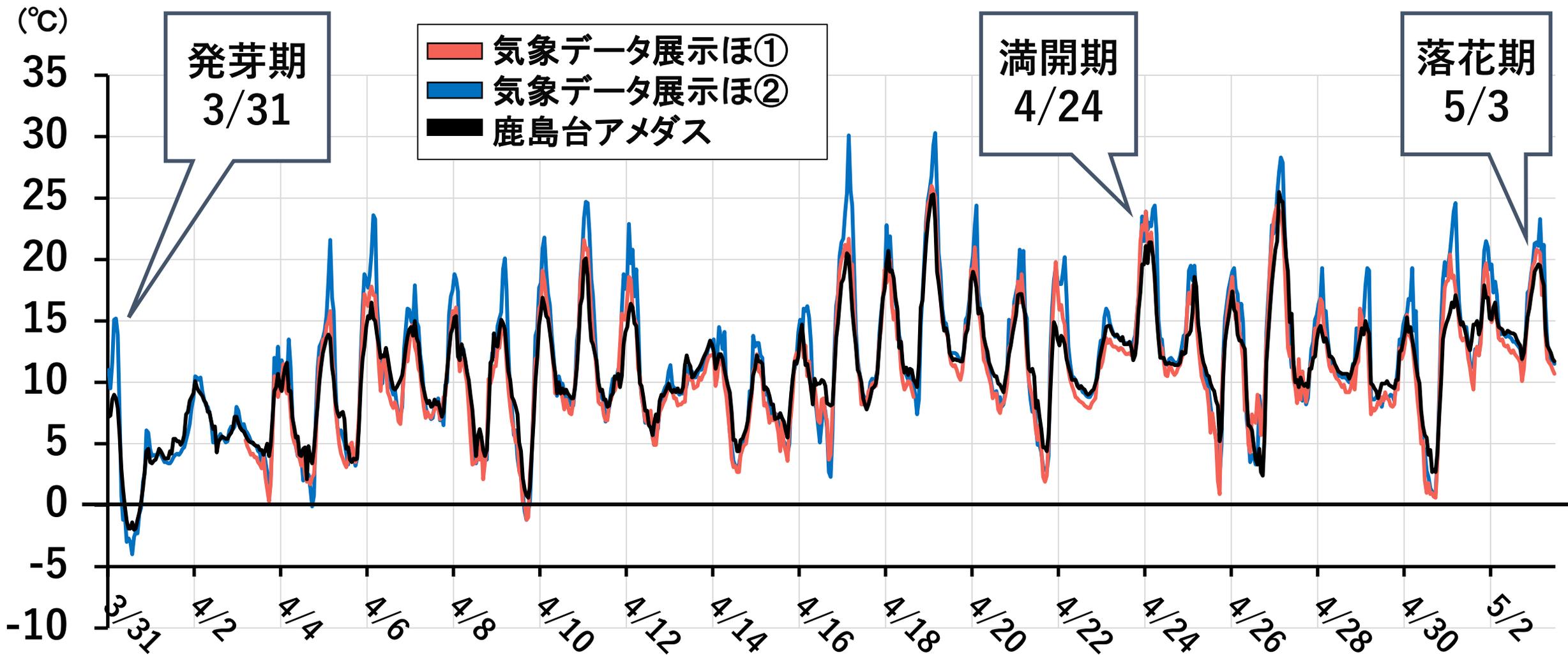
①環境測定機器
「ファーモ」
(若手生産者)



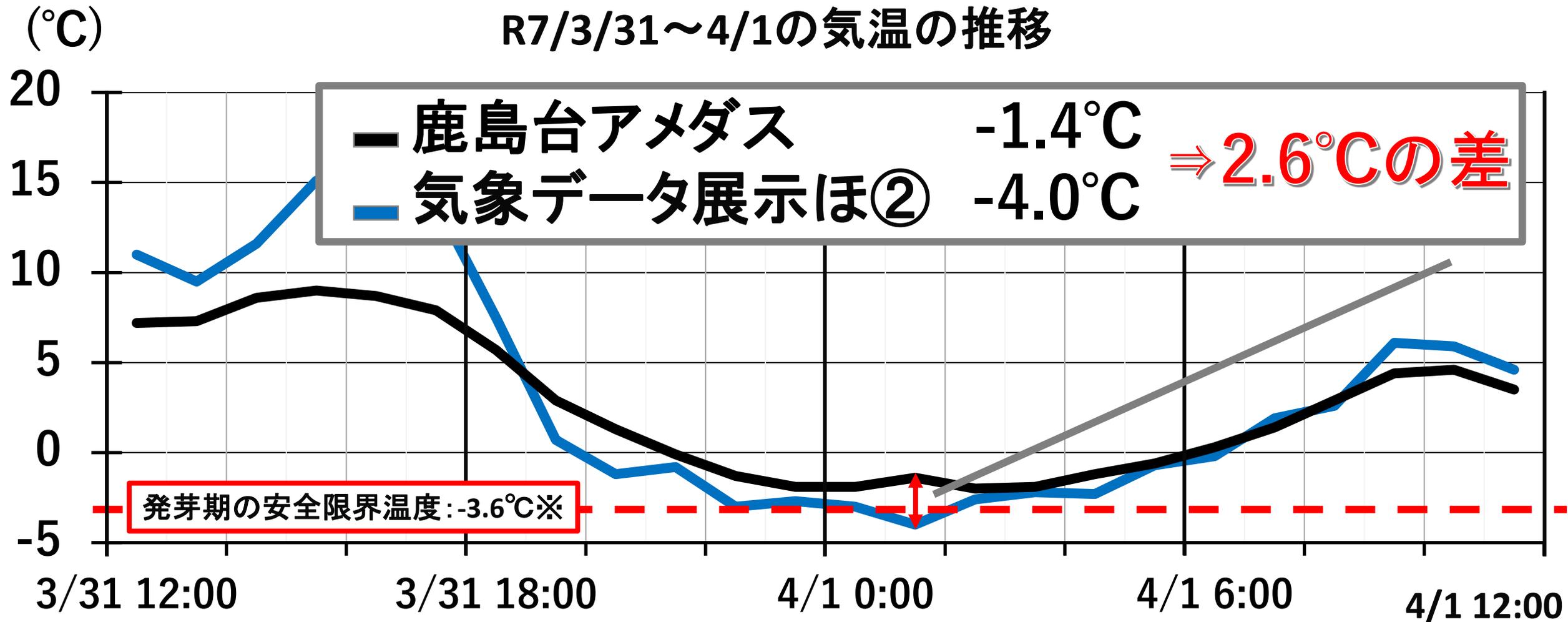
②データロガー
「おんどとり」
(ファームおてんとさん)

1 栽培環境の「見える化」

「凍霜害警戒時期」の気温の推移 (R7/3/31~5/2)



1 栽培環境の「見える化」



※引用: 福島県農業総合センター果樹研究所「落葉果樹の晩霜害対策マニュアル(第1版)」より

※安全限界温度: 植物体温が、当該温度下に1時間置かれた場合に、被害がわずかでも発生するおそれがある温度。

1 栽培環境の「見える化」 まとめ

- 凍霜害警戒時期において、園地内の夜温が鹿島台アメダスよりも低い傾向が見られた
- これまで生産者が肌感覚で感じていた、アメダス観測値と産地間の気温の違いが「見える化」された
- 北浦梨産地の気温の測定による、凍霜害対策の必要性が理解された

2 病害虫発生「見える化」

【発生消長調査】

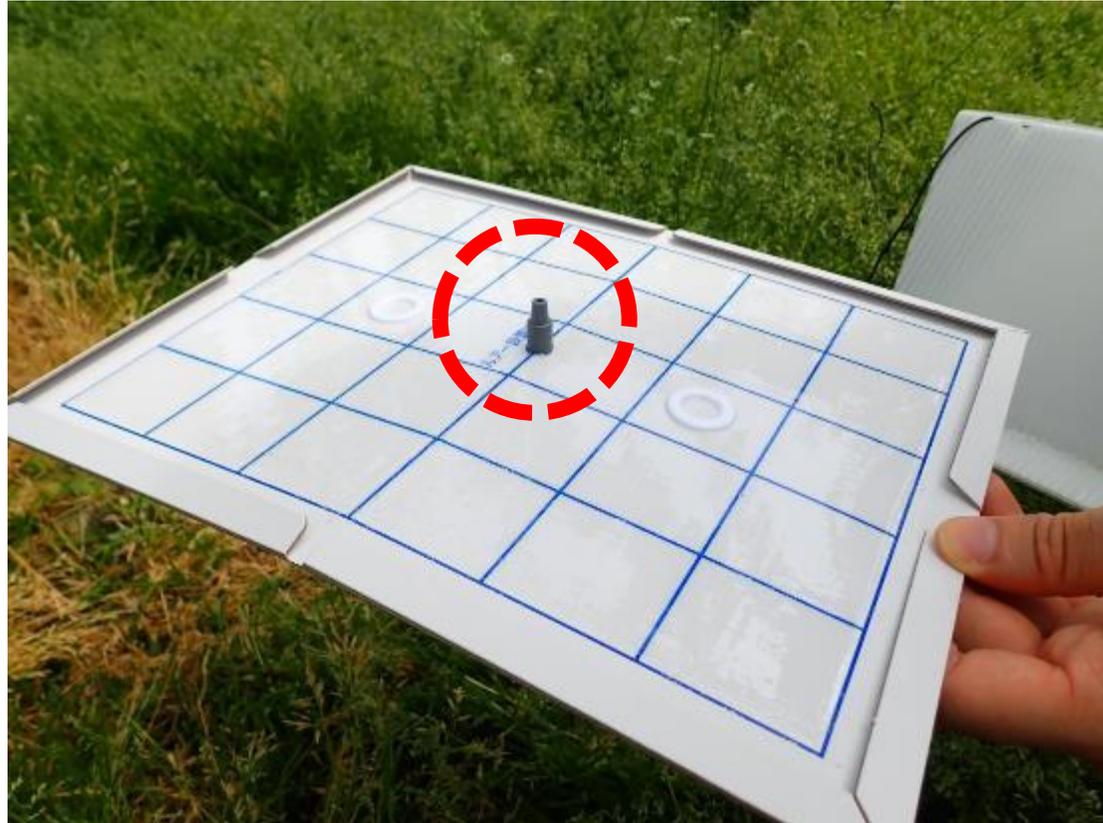
- ・ 調査方法：フェロモントラップ
- ・ 調査対象：ナシヒメシンクイ
(体長5～7 mm)
- ・ 被害：果実を食害



※ 1マス：約4 cm

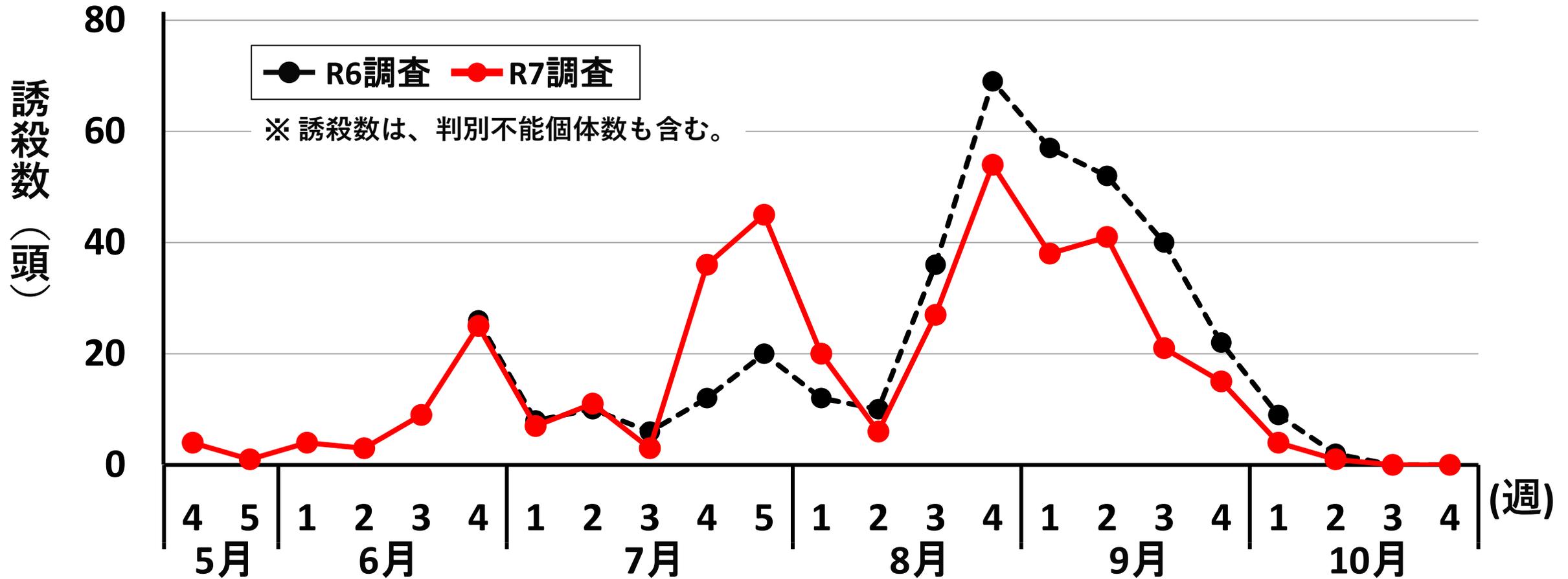
2 病害虫発生「見える化」

フェロモントラップを設置
(粘着板・中央にフェロモン)



2 病害虫発生「見える化」

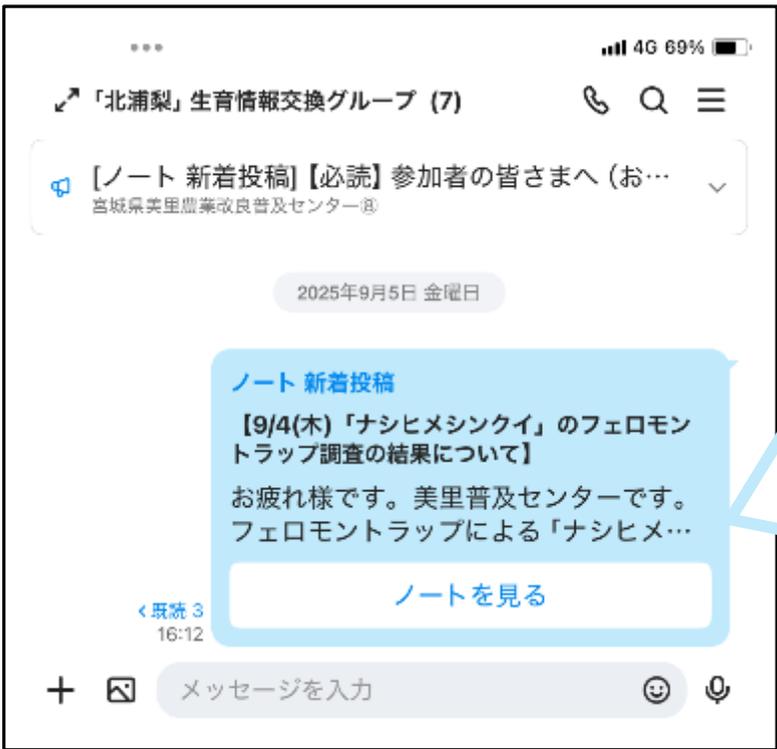
発生消長調査(美里町、日本なし慣行防除園)



2 病害虫発生「見える化」

LINE WORKSの活用

- グループの立ち上げ
- 発生消長の共有
- なし生育情報等の発信



×「北浦梨」生育情報交換グループ (7)

美里普及センター

[9/4(木)「ナシヒメシンクイ」のフェロモントラップ調査の結果について]

2025.9.5.

お疲れ様です。美里普及センターです。フェロモントラップによる「ナシヒメシンクイ」の発生状況の調査について、昨日の誘殺数（トフツプにかかった虫の数）をお知らせします。

<<9/4(木)の誘殺数：38頭>>

昨年よりも発生数は少なくなっていますが、福島県では9月下旬も害虫で食入による被害が確認された事例もあり、美里管内でも発生期間が長引く可能性があります。収穫が始まり、殺虫剤の最終散布を終えた方もいらっしゃるかもしれませんが、9月以降も収穫する品種については、9月中旬以降の防除もご検討ください。

この日は無さが知られていますが、週末はまた暑さが戻ってくるようです。引き続き作業の際は熱中症に十分注意しましょう。

ナシヒメシンクイ発生消長調査（美里町、日本なし横行防除園）

なし生育情報

令和7年7月25日 (No. 3)

美里農業改良普及センター（果樹担当 秋月）
電話：0229-32-3115、ファックス：0229-32-2225

＜生育状況＞

1. 作況調査（7月10日調査）
「幸水」の果実肥大は、平年並みとなりました。
（横径：平年比108.1%、直近10年平均比96.6%）

表1 令和7年産なし「幸水」生育状況

	果実肥大(6/10調査)		果実肥大(7/10調査)	
	(縦径)	(横径)	(縦径)	(横径)
本年	23.6mm	30.9mm	34.6mm	42.5mm
平年 (平年並)	22.1mm (+1.5mm)	24.8mm (+5.7mm)	33.9mm (+0.7mm)	39.3mm (+3.2mm)
直近10年平均	24.8mm	28.3mm	36.9mm	44.0mm

R7「幸水」
収穫開始日予測
8/23

2. 気象の推移（3月以降）

○向こう1か月（7/19～8/18）の天候の見通し（2025年7月17日発表）
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
・向こう1か月の日照時間は多く、降水量は平年並か少ないでしょう。
・天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。
（仙台管区気象台 気象庁JHPより）

2 病害虫発生「見える化」 まとめ

- 夏季の高温による病害虫の発生期間の長期化、発生時期のピークが「見える化」された
- 部会に呼びかけを行い、LINE WORKSでグループを立ち上げることができたことにより、病害虫の発生状況や「なし生育情報」等を適時に発信することができた
- 適期防除の意識が高まり、部会員自らの果樹カメムシ類発生消長調査の実施につながった

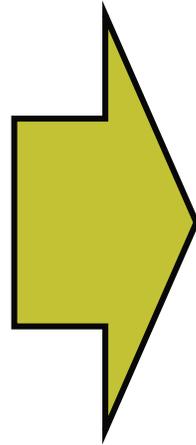
3 経営の「見える化」

【聞き取り調査】

- ・対象：梨部会の若手生産者
- ・内容：経営収支、作業時間等



経営管理状況の聞き取り



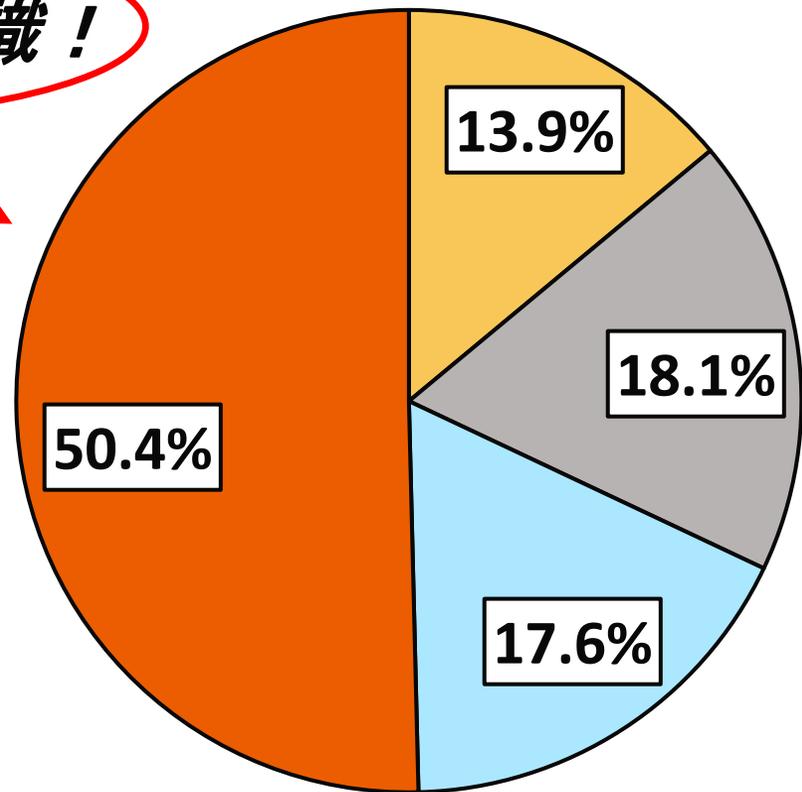
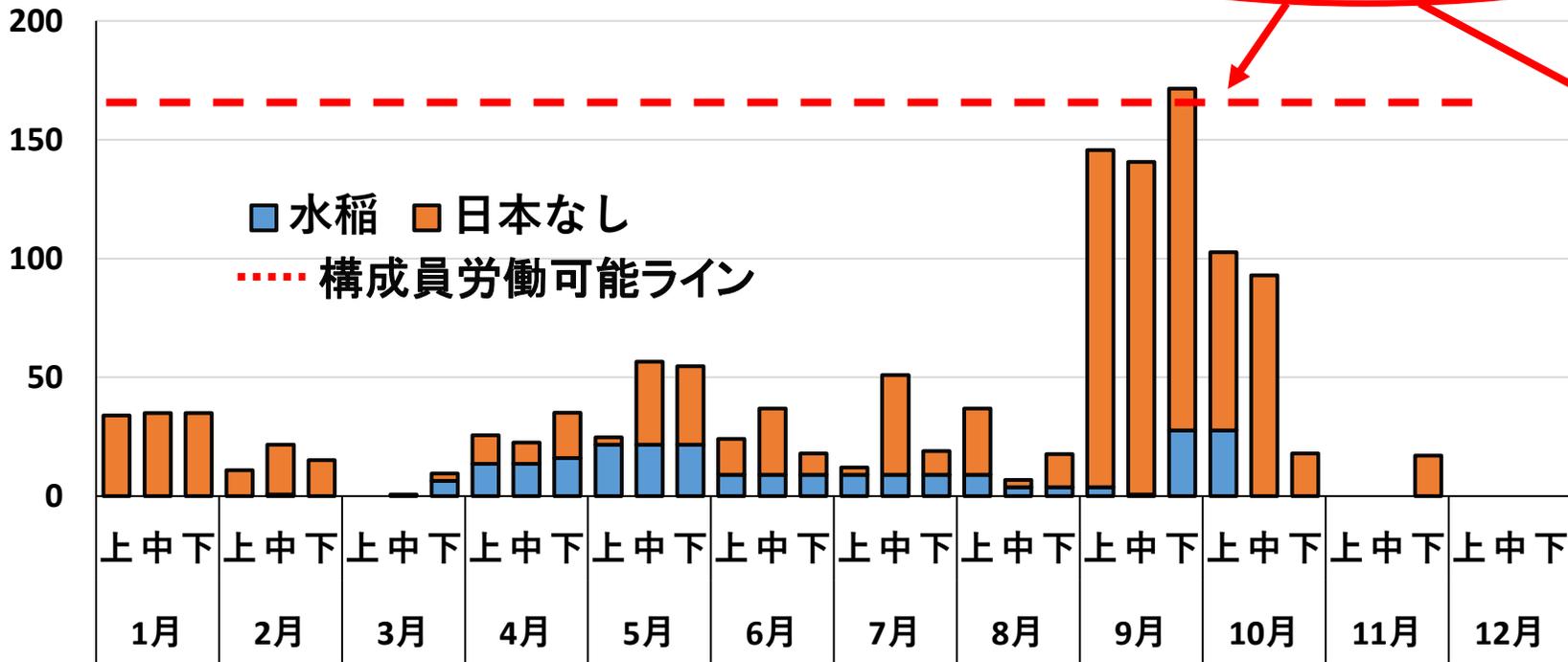
露地園芸品目導入 経営シミュレーションシート



経営シミュレーションによる検討

3 経営の「見える化」

経営の課題を認識！



水稻・日本なしの経営シミュレーション
 (旬別労働時間)

■ 剪定 ■ 摘果 ■ 栽培管理 ■ 収穫・調製
 主な作業別の作業時間

3 経営の「見える化」



利府梨生産者との交流



未来塾への参加

様々な経営者との交流

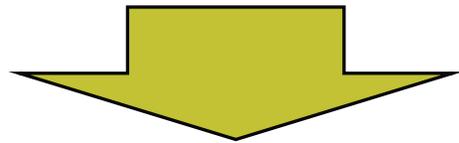
3 経営の「見える化」 まとめ

- 経営収支、作業時間が「見える化」された
- 梨収穫期の人員の確保等、経営課題を認識することができた
- 水稲と果樹の複合経営における、経営規模拡大を検討する際の基礎的なデータとして活用が可能となった

■ 成果のまとめ①

- 栽培環境や栽培管理を電子データで「見える化」して記録し、若手生産者を含むJA部会内等で情報共有や活用が行われた

ナシヒメシンクイの発生活長を情報共有



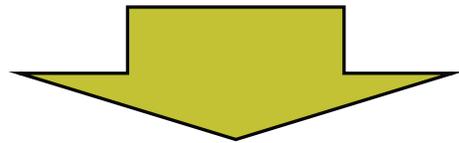
- データの重要性が理解され、部会員自ら果樹カメムシ類の発生活長調査を実施することとなった。
- 高温の影響による病害虫の変化への関心が高まり、防除暦の見直しが行われた。



■成果のまとめ②

- 若手生産者等が「北浦梨」生産にかかる収支状況を把握し、経営管理が行われた

経営状況の「見える化」による振り返り



- 本人の感覚以上に、収穫調製に時間がかかっていることを認識
- 面積拡大のためには、梨収穫時期の労働力確保が必須であることを認識
- 次年度以降の経営計画が検討されるようになった。



■ 成果のまとめ ③

- 産地間交流により、栽培管理や人材育成に関する意見交換が行われた
- 異なる営農形態の若手生産者の交流が行われた
- 他産地とのネットワークの構築
- ジョイント栽培や、新規就農に関する情報交換
- 将来ビジョンや課題の共有



- ↓
- 技術向上や、担い手育成に関する機運が高まった。
 - ゆるやかなネットワークの構築により、若手農業者の相互研鑽が図られた。

■ 今後の取組

栽培環境

気象データ収集・分析の継続

病害虫発生

発生消長調査、情報交換等ネットワーク運用

経営管理

経営シミュレーションデータの活用支援

産地間交流

産地間交流等を通じた技術向上と
担い手育成を支援



ご清聴ありがとうございました